

授業科目	メディア政策論				実務家教員担当科目	-			
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期			
担当教員	高橋 幸夫								
授業概要	<p>レガシーメディアと呼ばれるマスメディアやインターネット・SNSなど新しいメディアの普及が進んだことで、メディアに対する社会・経済的関心が高まっている。</p> <p>この講義では、社会とメディアの関係性を理論的に把握したうえで、新聞、ラジオ、テレビ、電話といった「レガシー」なメディア、およびインターネット・SNSといった比較的「新しい」メディアの社会的特徴・課題を把握し、理解することで、さらに新しいメディアが登場するであろう将来の社会生活におけるメディアの意味や生活者としてのメディアへの適応のあり方を考える。</p> <p>授業前半は、メディアについての社会・経済的な役割の歴史的变化と現状と課題を様々な視点から把握・理解する。コンピュータやスマートフォンといった機器（端末）が、人と人の結びつきやコミュニケーションのあり方をどのように変化させてきたのか、またさせているのかを、歴史的経緯を踏まながら理解する。</p> <p>授業後半は、外部講師による講義やディスカッション、また履修学生間のディスカッション、発表を主体に進める。</p> <p>ネット社会となった現代社会の可能性やリスクを理解し、ネットワーク環境と社会のあり方や方向性を考える。</p> <p>そのために、履修学生は新聞購読・時事解説番組等視聴が欠かせない。 （外部講師による講義はスケジュールなど変更もあり得る）</p> <p>なお、必ず、下記「授業以外の学習方法・学生へのメッセージ」を確認のうえ履修すること。</p>								
授業形態	対面授業		授業 方法						
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	<p>1 メディアとコミュニケーションの基本知識を習得することができる。</p> <p>2 国内のメディアの現状と問題点を把握することができる。</p> <p>3 メディアからの情報を生活の中でどのように活かしていくか理解できる。</p> <p>様々なメディアの現状と問題点を理解し、自身の生活に活かすことができる。</p>								
	<p>様々なメディアの現状と問題点を理解し、生活において活用することができ、またメディアの役割が今後の経済社会でどのように変化していくのかを自身の見解として述べることができる。</p>								
評価方法・評価割合									
評価方法	評価割合（数値）		備考						
試験	0								
小テスト	20%								
レポート	30%								
発表（口頭、プレゼンテーション）	40%								
レポート外の提出物	10%								
その他	0								

2025年度 授業コード：13102100

第15回	<p>テーマ：授業総括2 レポート課題について</p>
テキスト	プリントを事前に配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて参考文献は紹介するが、新聞（一般紙あるいは経済紙）の購読を薦める。
課題に対するフィードバックの方法	第1回授業で指示するが、授業中の発言、課題発表内容等によって評価する。課題に対するフィードバックは、講義の際に口頭、もしくは授業コメントシートに記入して返却するなどして実施する。
学生へのメッセージ・コメント	<p>本科目は、社会生活と様々なメディアの関わりを学修するため、極めて学際的な（幅広い）学問領域の科目として位置付けられる。そのため日々の生活の中で様々なメディアに接することが望まれる。特に、社会の現状、事象を把握するための新聞購読やニュース番組視聴が欠かせない。新聞（一般紙・経済紙）購読および各メディアニュース番組視聴が本授業履修の基本となる。また、ある1つの事象がメディアによって取り上げ方、あるいは論調・解説の違いが見られることからメディアによってなぜ、どのように違うのかを普段から意識して様々なメディアに接すること。</p> <p>本科目は、発表及びディスカッションを主体に運営進行していくため、事前の丹念な予習・準備を必要とすることを充分に認識して履修登録すること。</p>

